

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	令和3年度第1回松阪市行財政改革推進委員会	
2. 開 催 日 時	令和3年10月29日(金) 10時00分~12時10分	
3. 開 催 場 所	松阪市教育委員会事務局2階 教育委員会室	
4. 出席者氏名	委 員	落合 隆 (委員長) 水谷 勝美 (副委員長) 瀧本 和彦 竹川 博子 松浦 信男 村田 善清
	事務局	岡本 孝雄 企画振興部長 近田 弘之 DX推進担当理事 中井 弘明 市政改革課長 渡邊 匡紀 市政改革課改革係長 世古 貴彦 市政改革課改革係員
	推進チーム	藤木 洋司 経営企画課長 高村 直樹 情報企画課長 蒲原 智之 地域づくり連携課長 田中 靖 総務課長 中西 章 職員課長 池田 肇 財務課長
5. 公開及び非公開	公 開	
6. 傍 聴 者 数	2名	
7. 担 当	松阪市企画振興部市政改革課 TFL 0598-53-4363 FAX 0598-25-0825 e-mail shisei.div@city.matsusaka.mie.jp	

協議事項・議事録 別紙

令和3年度 第1回松阪市行財政改革推進委員会 議事録

と き：令和3年10月29日（金）10時00分～12時10分

と ころ：松阪市教育委員会事務局2階 教育委員会室

出席者：落合隆（委員長）、水谷勝美（副委員長）、瀧本和彦、竹川博子、松浦信男、
村田善清

事務局：企画振興部長 岡本孝雄、DX推進担当理事 近田弘之、市政改革課長 中井弘
明、市政改革課改革係長 渡邊匡紀、市政改革課改革係員 世古貴彦

推進チーム：経営企画担当参事 藤木洋司、情報企画課長 高村直樹、地域づくり連携課長
蒲原智之、行政担当参事 田中靖、財務課長 池田肇、職員課長 中西章

傍聴者：2名

事 項：1. 『松阪市行財政改革推進方針2021』アクションプラン【令和3年度取
組】について
2. 松阪市におけるDXの取組について
3. その他

（10時00分開始）

事務局

ただ今より、令和2年度第1回松阪市行財政改革推進委員会を開催する。

会議の前に、慶徳副委員長退任により、委員会規則第4条の規定から副委員長を互選
いただくことになる。副委員長選任について、事務局から提案してもよろしいか。

委員

異議なし

事務局

それではご提案申し上げます。副委員長に松阪市住民自治協議会連合会会長の水谷委員
をご推薦申し上げます。ご賛同いただく方の拍手をお願いしたい。

（全員拍手）

みなさまの賛同により、水谷副委員長を選任いただいた。水谷副委員長今後ともよろ
しくお願いしたい。

それでは、ここで、企画振興部長から一言挨拶を申し上げます。

企画振興部長

一言ごあいさつ申し上げます。本日はご多忙の中、出席いただきありがとうございます。
日ごろより、本市の行政運営に関し協力をいただくこと、改めてお礼申し上げます。昨年
度は、本委員会でも様々な意見をいただき、本市の新たな行革方針『松阪市行財政改革

推進方針 2021』を策定することができた。新たなその方針に基づき、今年度から市役所内の様々な部署で取組が始まっている。

本委員会のテーマ「行財政改革」は、時に市役所の内部ごととして、市民や企業のみならず、とり直接の関わりの少ないことかもしれない。しかし、人口減少、超高齢社会、公共施設の老朽化など大きな課題と直面するなか、「前例踏襲」の行政運営は通用せず、行政サービスを維持するだけでなく、多様化するニーズにしっかりと対応していくため、市民の皆様と直結する取組とし、常に新たな取組みを、一歩ずつ、着実に進めていくことが必要と考えている。

本日は、新方針に基づく取組の初年度、令和3年度のアクションプランとして、取組の概要を説明し、さらに、とりわけデジタル技術による変革、本市におけるDXの方向性などに関して、ご説明をさせていただく。今後しっかりと成果を上げていくため皆さまには、是非忌憚のないご意見を賜りたい。

事務局

ここからは委員会規則第5条に基づき、委員長に議事の進行をお願いする。

1. 『松阪市行財政改革推進方針 2021』アクションプラン【令和3年度取組】について

委員長

「事項1. 『松阪市行財政改革推進方針 2021』アクションプラン【令和3年度取組】について」事務局より説明いただく。

事務局

『松阪市行財政改革推進方針 2021』アクションプラン【令和3年度取組】について概要説明

委員

これから少子高齢化で職員も採用しにくい環境になると思う。会計年度任用職員の力も今までと違った意味で必要になってくると思う。そういった方たちにもこのような意識がいきわたるように取り組んでいただければ。

事務局

後ほど説明するが、組織力・職員力というところで、会計年度任用職員も含めて最も機能するように取り組んでいきたい。行財政改革推進方針 2021 の庁内周知にあたっては、市の幹部会議からおろしてくる手段をとった。所属から1名出してもらっての説明会という方法もあるが、コロナ禍ということもあり、説明音声をとって全庁掲示板でアナウンスした。職員提案制度では、会計年度任用職員から次長級まで提案を提出していた

だいた。

委員

教えていただきたい。職員提案制度は良い制度であると思う。職員提案制度と組織の目標はどのように結びつくか。

事務局

職員提案制度は、自所属以外の施策で「こうしたらいいのになあ」というのを提案する制度である。提案が出されれば、部局による専門的意見を踏まえ、市長・副市長が審査する。1所属1つの行革取組は、各部署で考えてもらうものである。職員提案制度で出された取組は、市長から部局に検討の指示が出ていることから、提案で出されたことを行革取組としてあげていただくなどで関係が出てくる。

委員

職員提案制度で採用された場合は、人事評価制度との関連で特別昇給という仕組みはあるか。

事務局

そういった手法は採っていない。「実現の価値」より「検討の価値」に重きを置いている制度でもある。副賞として褒賞金を授与しているが、人事評価制度とのリンクにより昇給は行っていない。なお、人事評価制度から給与への反映は、部長級では既に取り組んでいるが、次年度から一般職へも反映する予定である。人事評価制度は本業による評価、職員提案制度は本業以外での提案に対する評価である。

委員

公共施設マネジメントの推進、施設の洗い出しをされていたと思うが、それを継続してという理解か。

事務局

以前はエクセルにて施設毎の把握をしていたが、システムを入れて横串を指して集計や比較をしやすくした。施設マネジメントはずっと続けていく取組であり、施設の老朽化が進んでいるなかで、更新、廃止、統合の検討を進めていく。

委員

飯南地域振興課における旧町民センターの売却について、解体条件付きの売却とはどのようなことか。

事務局

土地がほしい人に応札をしてもらうが、土地上にある建物の解体を行ってもらうことを条件とする手法である。通常であれば建物を解体してから公売にかけるが、この手法は建物の解体がセットになる。創意工夫で解体をしていただければ、行政が行うより費用面でのメリットが生じる可能性も踏まえて行う。

委員

補強して使いたいという人がいれば、解体しなくても可能ではないかとも思うが。

事務局

事前にサウンディング調査などを行い、解体条件とするのか、解体条件をつけないのかという選択は可能かと考える。

委員

解体しないといけないという考え方を捨てる方が、活用の可能性も広がるかと考える。

事務局

耐震性がない建物の扱いのため、慎重に考える必要がある。

委員

ある程度の自由度がないと、民間が入っていきにくい。民間と協業しやすい条件も考えたいうえで、公共施設の民間活用をしていくのが良いと考える。

企画振興部長

公売をかける前に、ホームページで活用の意向調査も行っているところである。そこで公売できるものは公売していくというステップである。

委員

松阪市も企業誘致をする場所がないのであれば、公有地の売却で企業誘致につなげることも一つの手法であると考えます。

委員

コロナ対応に関する事で、イベントを行うという表記がいくつかあるが、各課で検討するとイベントの開催や参加条件が変わるのではないかと。コロナ対応について横串を刺したうえでやっていくことで、統一感が生まれ、検討も効率的ではないかと。また、「や

める」「へらす」「かえる」のなかで、各課取組をみてもなかなか「へらす」が見受けられないように思う。

事務局

コロナ対応については、部局長クラスによる「コロナ会議」を設けており、コロナ対策の方針はその場で決定がされている。なかなか「へらす」という取組が出てきづらいのが課題であると考えている。

委員

この委員会で、前々から「数値目標が大事」と申ししていると思う。数値目標は大事な部分であり、難しいかもしれないが、そこを見直していかないと根本的に変わっていかない。「かえる」という部分で、DXの取組はここに入ってこないのか。

事務局

DXについてはDXの部分で上げさせていただいており、重複するものは掲載していないのでご理解いただきたい。個々に数値目標を設定しているものもあろうかと思うが、単年度で行革取組を設定しており、数値で出しにくい取組もあるかと思う。

委員

単年度だからこそ数値化すべき。数値を達成することで職員を評価することは、民間であれば当たり前に行っている。「がんばった」「熱意があった」では適正な評価とならない。短期目標こそ数値化をすべきであり、その置き方こそ、その所属の管理職がどう考えているのかの表れである。

事務局

ご意見ありがとうございます。各課に呼びかけたときに、なるべく数値化をと入れたものの、このような結果となっている。さらにしっかり発信を行っていきたい。

委員

タブレットのページと、実際の冊子のページで違いがある。その案内を明確にさせていただきたい。また、市道の草刈りは、地元の自治会が希望して行うところもある。地元の自治会で刈ってもらえたら、委託費も浮くと思う。そのような検討も進めていただきたい。

事務局

承知した。

委員

行政手続きのオンライン化は重要なテーマで、ぜひ頑張っていたただきたい。しかし分析すると、一度やろうとしたけど最後までいけずに断念したという数もかなり多い。松阪市でも、ロビーでご案内いただく方もいらっしゃるが、そこで音声案内を導入するなどの工夫ができないか。

委員

行政手続きのオンライン化はとても良いことだと思う。最近、マイナンバーカードで証明がとれるのはとても便利だと思う。しかし、オンライン手続きは年配の方が対応できないことも多い。例えばコロナワクチンの予約をネットでとるときに、夫婦で一緒にとれるのに案内が不十分で、結局電話で予約したというケースもあった。年配の方は、スマートフォンをお持ちではない方も多く、そういった方を取り残さない行政にしていただきたい。

委員

人事評価制度の充実について、主幹級以下の職員にも反映の仕組みとあるが、現在、主幹級以上の方の評価はどのような単位で表されているか。また、その評価をどのように決められているか。

事務局

これまで、人事評価で「評価」はしているが「反映」はしていなかった。「業績評価」と「能力・態度評価」で評価している、5段階評価である。

委員

評価者は。

事務局

一般職なら課長級、課長級であれば部長級である。

委員

そこまで数値化されているのであれば、給与に反映していくほうがモチベーションは上がるであろう。若い時から評価が給与に反映される方が、仕事姿勢もかわると思料する。

委員

研修を受けたらフィードバックさせていたが、管理職が忙しすぎてスルーしてしまう

との例もある。その点も考慮を。ハラスメントに関しては相談窓口が重要である。相談窓口となる方向けの研修も充実させると良い。

事務局

ハラスメントによる処分の例もあった。課長級がハラスメントの対象であれば部長級に伝えてもらうルートもあるが、主に職員課で相談を受けている。

委員

県では、人事委員会に相談対応の方がいる仕組みである。市では職員課か。

事務局

主に職員課対応である。ハラスメントに遭った方からメール等で相談を受けている。第三者委員会を設けることはしていない。市長への「目安箱」といって、市長に直接手紙を出すという手法もある。

委員

相談する先があるということを職員が知っていることが大事である。そのあたりの体制をしっかりとっていただきたい。イノベーション創出の組織について、「多様性」という言葉が出てこないのが気になった。

事務局

テレワークも多様性の一つであると考える。例えば子育て中の職員や介護をしている職員もいると思うので、新しい働き方が可能になる。ただし、地方公務員法も遵守しなければならず、法令に適合するやり方を引き続きやっていきたい。

2. 松阪市におけるDXの取組について

委員

松阪市はDXが進んでいて頑張っておられると思う。引き続き進めていただきたい。データ形式やフォーマットを変えるとRPA化などが進みやすい。行かなくていい市役所づくりも非常に素晴らしい。伊勢市は1か所で終わる市役所づくりをされている。1つの目的で何か所か回らなければならない。行けば1か所で終わる市役所も考えていただきたい。

DX推進担当理事

各課でバラバラに取り組んでいるものを、役所としていかに効率化できるかというの

を全体で考えていかなければならない。デジタルを使いたいために入れるのではなく、しっかり考えていきたい。例えばペーパーレス化を進めることで、書類を抱えて説明しなくても、端末1つで説明や相談に乗る環境ができる。無線化を進めることで、どこでもインターネット接続ができる。松阪市役所庁舎は狭あいの課題があるが、DXによってスペースの有効活用もできるようになる。全体を見渡ししながら、DXについて考えていく必要がある。

委員長

他にご意見は。

委員

なし

3. その他

事務局

当委員会の開催の方法についてご意見をいただきたい。今後、アクションプランは前年の実績も載せて、6月頃に開催していきたい。DXの取組など、市民に大きな影響があるものは当委員会でご意見を頂戴したい。今回はコロナが落ち着いた段階で、集合していただいたが、今後はリモート形式でも考えているところである。この点について委員からご意見を頂戴したい。

委員長

私としては問題ないと思うが、具体的にどういう形式か。

事務局

それぞれ、ご自身のPCから時間になったらアクセスしていただく。ツールはZOOMを使用予定である。

委員

異議なし。

以上